

支援事例 | 一般社団法人大田市観光協会

職員アンケート等の現状分析の後、デジタルツールの適用性検証を実施し、職員が効果を体感。効果検証結果を元に、まずは内部のデジタルライゼーションに優先的に取り組むことを具体的に計画。

一般社団法人大田市観光協会				https://www.ginzan-wm.jp/	
本社所在地	大田市仁摩町大国 42-1	資本金	-	事業概要	情報発信業務、旅行商品の造成及び販売、DMOの推進、3案内所での案内業務、売店の運営
代表者名	谷本隆臣	従業員数	31名		
設立年	2015年	業種	観光業		

背景

- 大田市DMOとして、観光による地域づくりを目指しているものの、定期的な職員の異動も多く、組織にノウハウが蓄積されにくい上、長く所属するメンバーへの属人化が進んでしまっていることに課題を感じていた。
- インバウンド需要に対応するために多言語対応も必要となってきたが、人材確保に困難を抱えている。
- 観光情報の発信をしていきたいが、最新情報を迅速に更新したり、多言語に対応することができていない。
- 業務効率化のためのデジタル化や、観光情報のパーソナライズや地域全体での観光振興を目指したデータ活用の在り方を専門家の力を借りながら、持続可能な形で実装したいと考えていた。

計画の骨子

現状分析及び課題解決策の検証	<ul style="list-style-type: none">▶ 職員アンケートや個別ヒアリングを通じて、現状の業務における課題を詳細化し、原因を分析。▶ 課題解決策として複数のデジタルツールの適用性検証を本事業期間内に実施することとした。
適用性検証	<ul style="list-style-type: none">▶ 業務効率化の検証として『UiPath (UiPath社)』、情報共有等の検証として『Google Workspace (Google社)』、観光支援の検証として『InterPlay (アルプスシステムインテグレーション社)』を伴走支援を受けながら試行した。
優先順位付けした計画の策定	<ul style="list-style-type: none">▶ 投資対効果の高い『Google Workspace』の活用による本部内業務の効率化を優先し、具体的に計画。▶ その他の解決策についても、今後の計画と課題を整理した。

支援者 | 株式会社アズム